

第40号 (2000年秋季号)

特集●労働総研設立10年の足跡

- 10年をふりかえって
- 労働総研これからの10年に期待する
- 実践的研究に期待
- 21世紀初頭における情勢の特徴と研究課題ー労働総研10年を総括してー
- 労働総研10年の事業活動の広がり到達点
- 機関誌「労働総研クォーターリー」総目次
- 機関紙「労働総研ニュース」総目次
- 海外向け機関紙「Rodo-Soken Journal」総目次

黒川 俊雄
戸木田嘉久
小林 洋二

書評●三富紀敬著『イギリスの在宅介護者』

高島 進

●仲野組子著『アメリカの非正規雇用』

夏目 啓二

●産業構造研究会編『現代日本産業の構造と動態』

上原 信博

新刊紹介●川村俊夫著『日本国憲法の心とは何か』吉田健一●小越洋之助監修労働総研編『今日の賃金ー財界の戦略と矛盾』伊藤欽次

機関紙「労働総研ニュース」総目次

※主な論文・記事を掲載

No.1・90年4月

- ・「労働総研ニュース」の創刊にあたって

戸木田嘉久

No.2・5月

- ・エコロジカル・アカウンティングの提唱
- ・アジア・太平洋労働組合国際セミナー・ワークショップ報告

山口 孝
永山 利和

No.3・6月

- ・1992年に1800労働時間は達成可能か
- ・自由化、民主化後のハンガリーの印象
- ・日本経済の現状と展望

藤本 武
角瀬 保雄
関 恒義

No.4・7月

- ・労働組合運動活性化の途は？
- ・ユーゴスラビア、イタリア、スペイン訪問

塩田庄兵衛
日野 秀逸

No.5・8月

- ・いかなる労働者像をえがくか
- ・90春闘の特徴と教訓

江口 英一
熊谷 金道

No.6・9月

- ・「多国籍企業」と「下からの規制」
- ・いのちと健康を守る運動に新しい発想を

儀我壮一郎
山田 信也

No.7・10月

- ・労働運動と教育要求
- ・金融をめぐる現在の情勢

大槻 健
今宮 謙二

No.8・11月

- ・日本の国際的責務
- ・フランスの1985/86年生活時間調査

浜林 正夫
三富 紀敬

No.9・12月

- ・石油企業の不正
- ・高齢化社会危機論の論点と批判の方向

上田 誠吉
川上 則道

No.10・91年1月

- ・地球環境問題と労働組合運動
- ・新しい大学危機と世界各地の大学訪問

黒川 俊雄
永山 利和

特集・労働総研設立10年の足跡

No.11・2月

- ・民主主義への信頼
- ・第12回世界労働組合大会に参加して

高木 督夫
加藤 益雄

No.12・3月

- ・「労問研報告」と日本型ファシズム
- ・独占資本の資本蓄積と労働組合の要求綱領

原 嘉彦
小森 良夫

No.13・4月

- ・労農同盟の、昔と今
- ・インドCITU大会に参加して

河相 一成
岸本 直美

No.14・5月

- ・社会科学の「ルネッサンス」
- ・高齢者の生活を保障する雇用と公的年金を

竹内 真一
相沢 与一

No.15・6月

- ・ウォーターフロント政策に労働者・住民の参加を
- ・時短推進のために求められるもの

柴田 悦子
金田 豊

No.16・7月

- ・始め悪くとも
- ・賃金闘争の課題—91春闘をふりかえって—

小川 政亮
牧野 富夫

No.17・8月

- ・「企業社会」批判の時代?
- ・臨調「行革」10年と日本の社会保障の現状

下山 房雄
柴田 嘉彦

No.18・9月

- ・真の国際的貢献は何か
- ・厚生省「マンパワー対策」中間報告と貧しい民間社会福祉労働者の労働条件(上)

置塩 信雄
水野洋次郎

No.19・10月

- ・「働かされすぎ」と人事考課
- ・厚生省「マンパワー対策」中間報告と貧しい民間社会福祉労働者の労働条件(下)

木元進一郎
水野洋次郎

No.20・11月

- ・ドイツ統一とILO条約
- ・春闘と女性の賃上げ

島崎 晴哉
桜井 絹江

No.21・12月

- ・大資本の超過利得の社会的還元
- ・豊かさについて考えさせられた旅—ブラジル印象記

林 直道
館 浩道

No.22・92年1月

- ・青年の心をとらえる労働運動を
- ・女性昇格差別訴訟の画期的な成果
- ・注目をあびた全労連国際シンポ

長谷川正安
黒川 俊雄
加藤 益雄

No.23・2月

- ・国民の寛容さにも限度がある
- ・「時短先進国ドイツ」の生活

戸木田嘉久
佐々木昭三

No.24・3月

- ・患者の権利と政府の責任
- ・CGT44回大会

日野 秀逸
下山 房雄

No.25・4月

- ・労働条件の国際比較における陥穽
- ・シンポ「労働時間短縮の日本的障害」開催

一ノ瀬秀文
西村 直樹
牧野 富夫
下山 房雄

- ・フランス全国教員組合FEN—分裂か?

No.26・5月

- ・きびしく対決する2つの流れ
- ・ベトナム労働総同盟訪問報告

大江 洸
三瀬 勝司

・CFDT42回大会 No.27・6月	下山 房雄
・こだわりたい原点	畑田 重夫
・実効性のある介護（看護）休暇制度実現の運動と課題	中島 晴代
・FO17回大会 No.28・7月	下山 房雄
・「自分の頭で考え、自分の足で歩き、自分の手で暮らす」	山田 信也
・92春闘賃上げ結果の一側面	金田 豊
No.29・8月	
・壮大な学習の機会となった参院選	三上 満
・「ECO92」ブラジル会議に参加して	館 浩道
No.30・9月	
・「共生の時代」	鯨坂 真
・「「過重労働」下の労働と生活に関する調査報告」記者発表のための江口メモ	江口 英一
・アメリカ3都物語ー現地に見る規制緩和失敗の法則ー	筒井 晴彦
No.31・10月	
・時短の論議を職場から	上条 貞夫
・日経連の時短抑制政策批判	大場 秀雄
・「不法就労」者をめぐる深刻な医療問題	宇和川 邁
No.32・11月	
・佐川疑獄事件・深部の怒り	高島 三郎
・不況下の雇用・失業情勢をどう見るか	伍賀 一彦
No.33・12月	
・いま、立憲主義の闘いこそ	細迫 朝夫
・雇用問題と労働組合運動の課題	西村 直樹
No.34・93年1月	
・どうなる、日本経済	高木 督夫
・労働総研・全労連「不況対策シンポジウム」をふりかえって	牧野 富夫
No.35・2月	
・医療で、いまでも「お礼奉公」が	江尻 尚子
・93年度日経連「労問研報告」批判	辻岡 靖仁
No.36・3月	
・運動の発展にともなって求められる労働総研の研究活動	内山 昂
・「今日の低賃金」の深まり	金沢 誠一
No.37・4月	
・社会主義・労働組合・民主主義	小野 一郎
・今日における保育所問題	逆井 直紀
・高齢者への攻撃は人権への野蛮な攻撃	西村 直樹
No.38・5月	
・原点	津田 達夫
・バブル経済が見せた大銀行の横暴	御獄 友一
No.39・6月	
・「経済大国」と「軍事大国」	高内 俊一
・労基法「改正」法案通過で談話ー「改悪実施されないとりくみを」	熊谷 金道
No.40・7月	
・被爆50周年にむけ、93年原水爆禁止世界大会の歴史的意義	佐藤 光雄
・中小企業の賃金闘争を通してみた93春闘の特徴	金田 豊
No.41・8月	
・正念場をむかえた年金闘争	塚田 義彦
・フランス労働組合運動の近況若干	下山 房雄

特集・労働総研設立10年の足跡

No.42・9月

- ・「職場の真実」と「表現の自由」
- ・バブル経済の崩壊と勤労者生活

渡辺 峻
唐鎌 直義

No.43・10月

- ・「福祉の問題」と「政治の問題」
- ・医療労働者の統計

中村東輝子
野村 拓

No.44・11月

- ・ロシアと東欧の混沌の中から
- ・不況下の雇用調整と雇用問題－形骸化する終身雇用制－

芦田 文夫
伍賀 一道

No.45・12月

- ・農民と労働者の心一つに
- ・青年をとりまく思想状況

小林 洋二
鯨坂 真

No.46・94年1月

- ・平成の「米騒動」に思う
- ・不況・リストラ「合理化」と民主的規制

重富 健一
牧野 富夫

No.47・2月

- ・不況と青年
- ・雇用危機とドイツ労働組合運動－VWの企業別協約－

大串 隆吉
島崎 晴哉

No.48・3月

- ・消費税率アップは許さない
- ・内部留保吐き出し要求と可処分所得の現状

杵渕 智子
山本 義彦

No.49・4月

- ・北海道の現実と政治を問う
- ・高まる損保労働者の健康不安

山口 康夫
阿南 圭一

No.50・5月

- ・失対事業がなくなってしまう
- ・現代日本における労働衛生行政の問題点

大須 真治
毛利 一平

No.51・6月

- ・職場組合員レベルの調査交流と学習を
- ・日本の労使関係と人事考課

芹沢 寿良
木元進一郎

No.52・7月

- ・確信をもって消費税増税をはねかえそう
- ・94年春闘、そしてこれから

清山 卓郎
塚田 義彦

No.53・8月

- ・「国際家族年」と社会保障
- ・国際教職員組合運動の新しい局面
- ・最近東欧労働事情－ポーランド

浜岡 政好
片山 政造
下山 房雄

No.54・9月

- ・産業空洞化・「リストラ」攻撃と金属労組の課題
- ・「平成6年版中小企業白書」について
- ・ストックホルム通信

小林 宏康
大林 弘道
米田 康彦

No.55・10月

- ・新たな確信と期待の広がる建設の産別共闘運動と政策研究の役割
- ・大幅な私大助成で父母・学生の負担軽減を
- ・最近東欧労働事情（2）－ハンガリー

椎名 恒
古賀 義弘
下山 房雄

No.56・11月

- ・みみずくのたわごと！（わかりやすい文章と話について）
- ・過積載をめぐる状況

引間 博愛
石沢 賢二

No.57・12月

- ・統計の社会性と労働組合
- ・日経連が目指す「農業改革」の罪と罰

岩井 浩
河相 一成

No.58・95年1月

- ・いま団結権なき労働者を考える
- ・なぜいまナショナルミニマムなのか

神尾 京子
牧野 富夫

No.59・2月

- ・阪神大震災と復興の視点
- ・クリントン政権下の労働運動とAFO-CIO
- ・あらためて問われるべき「アルバイト・スチュワーデス」問題

塩崎 賢明
小林 由知
宇和川 邁

No.60・3月

- ・「雇用調整」は「雇用破壊」「人間破壊」をもたらす
- ・地方分権と自治体リストラ

黒川 俊雄
小沢 辰男

No.61・4月

- ・労働組合と「新人」たちとの距離
- ・大企業交流集会和職場のたたかい

藤原 壮介
西村 直樹

No.62・5月

- ・青年の「能力評価賃金」への願望という問題
- ・マルチメディア問題を考える

吉井 清文
青木 俊昭

No.63・6月

- ・「公的介護保険」構想をめぐって
- ・コース別雇用管理の問題

佐藤 卓利
渡辺 峻

No.64・7月

- ・労働運動と地域
- ・95春闘の特徴と変化
- ・パートタイム立法の近況と一コメント

木村 隆之
金田 豊
相沢 与一

No.65・8月

- ・平成不況と労働運動
- ・景気の現段階をどうみる

明石 博行
岡嶋 明

No.66・9月

- ・所得税非課税限度額をめぐって
- ・日経連「新時代の「日本的経営」」について
- ・ナショナル・ミニマムの学説的系譜と発展方向（上）

山田 郁子
牧野 富夫
相沢 与一

No.67・10月

- ・日本異質論
- ・世界人権宣言と米国の人権条約批准
- ・ナショナル・ミニマムの学説的系譜と発展方向（下）

川鍋 正敏
小林 由知
相沢 与一

No.68・11月

- ・雇用問題と労働時間短縮闘争
- ・日米フィルム市場摩擦とAPEC

西村 直樹
中本 悟

No.69・12月

- ・「日本の労働慣行」のゆくえ
- ・マルチメディア問題の動向

中原 弘二
栃尾 惇

No.70・96年1月

- ・阪神・淡路大震災から一年—ますます深刻になる被災地—
- ・現代の家計構造と国民生活の最低限保障
- ・ジョン・マニングさんと労働総研との懇談

峰 広幸
浜岡 政好
佐々木昭三

No.71・2月

- ・労働組合組織率のこと
- ・バブル崩壊後の不安定雇用労働

板垣 保
藤田 実

No.72・3月

- ・「人間の生産」と「生活手段の生産」
- ・国債との関係から見た1996年度予算案

西野 勉
安藤 実

特集・労働総研設立10年の足跡

No.73・4月

- ・保育所の機能拡充をどうとらえるのか
- ・「過労死」問題をめぐる最近の動向

逆井 直紀
山田 信也

No.74・5月

- ・持株会社と中小企業、労働者—独禁法第9条が危ない—
- ・銀行員「高賃金」論の問題点

福島 久一
田中 均

No.75・6月

- ・金融寡頭制と住専問題
- ・規制緩和と運輸一般のたたかい

野田 正穂
山田 喜巳

No.76・7月

- ・技術と事故をチェックする職場の労働運動を
- ・96春闘結果の特徴について

西村 直樹
金田 豊

No.77・8月

- ・政治への視点
- ・景気の動向と国民生活

津田 達夫
草島 和幸

No.78・9月

- ・科学技術総動員体制への焦り
- ・ベトナムの市場経済と労働者を取り巻く環境

浜林 正夫
小林 由知

No.79・10月

- ・「労働世界」創刊100年
- ・地方分権論議の動向とその問題点

福谷 保夫
中西 啓之

No.80・11月

- ・労働運動における家族問題
- ・深夜長時間労働と郵政労働者のたたかい

長沢 孝司
田中 論

No.81・12月

- ・社民党の「歴史的使命」
- ・中労委・地労委の労働者委員の公正な任命を求めるたたかいの現状

諫早 忠義
森下 昭平

No.82・97年1月

- ・JITシステムとCAW
- ・公害・環境破壊と労働運動

丸山 恵也
山口 孝

No.83・2月

- ・民営化・規制緩和の国際比較研究の意義
- ・児童福祉法「改正」と保育制度

桜井 徹
逆井 直紀

No.84・3月

- ・北朝鮮の「あぶなさ」?
- ・正念場を迎えた公的保障・個人補償

近松 順一
菊本 義治

No.85・4月

- ・経営分析における出向問題
- ・労働法改正の動向とその特徴

谷江 武士
萬井 隆令

No.86・5月

- ・求められる地域共闘の現在的意義
- ・新食糧法2年目—混迷の軌跡と実相

井上秀次郎
重富 健一

No.87・6月

- ・職場の現実的、実証的、実践的追求を
- ・大学教員任期制はなにをもたらすか
- ・地域経済振興の運動と交流のつどい

細川 汀
浜林 正夫
佐々木昭三

No.88・7月

- ・仮設住宅での三度目の夏と日本の社会保障
- ・厚生年金基金をめぐる動向と問題点

浜岡 政好
庄司 博一

No.89・8月

- ・労働者と地方分権

河相 一成

・行政改革について	春山 明
No.90・9月	
・博士号をもつバスの運転手—米国小旅行記	足立 辰雄
・減速し始めたベトナム経済と労働者・国民の状態	小林 由知
No.91・10月	
・蛭川京都民主府政と「府職労」	上田 勝彦
・今日の雇用確保・失業反対闘争をめぐる若干の問題点	戸木田嘉久
No.92・11月	
・「波瀾万丈 明治の母は強し〜しあわせだったのでは？」	宇野 武夫
・20世紀史論の視点をめぐって	山田 敬男
No.93・12月	
・介護保険の導入と福祉の市場化	太田 正
・政府の二つの「日本経済論」と深まる消費不況	大場 秀雄
No.94・98年1月	
・歌声を奪うもの	増田れい子
・運輸産業における「協力金」問題について	国分 武
No.95・2月	
・まちづくりに住民の声を	八幡 一秀
・2交替長時間夜勤で増大する看護婦の疲労	田村 昭彦
No.96・3月	
・能力主義賃金と青年労働者	金田 豊
・大学教員任期制法成立後の大学の動き	浜林 正夫
No.97・4月	
・変貌するドイツの職場	平澤 克彦
・「金融ビックバン」での国民的課題と銀行労働者のたたかい	坂本 幸男
No.98・5月	
・三池炭鉱労働者のあたらしいたたかい	鈴木 ふみ
・今日の住民生活と社会的政策の課題—高齢者調査をとおして	浜岡 政好
No.99・6月	
・介護保険への新たな疑問	津田 光輝
・国民・消費者のための損害保険をめざして	佐藤 秀光
No.100・7月	
・「労働総研ニュース」100号を記念して	黒川 俊雄
・98春闘の賃金闘争総括に関連して	金田 豊
No.101・8月	
・介護保険法をこのまま実施させてよいのか	岡崎 祐司
・リーマン生産方式に対する闘い	木村 隆夫
No.102・9月	
・周辺事態法案、改憲策動に国民的反撃を！	吉田 健一
・「橋本行革」とのたたかいはこれからが本番	小田川義和
No.103・10月	
・雇用の現状に思う	後藤 実
・アジア危機の影響を受けるベトナム経済	小林 由知
No.104・11月	
・明快な政治選択のとき	山崎 豊
・子ども・教育の危機と国民的な共同の課題	三上 満
No.105・12月	
・「公金」の動向総点検を	津田 達夫
・戦後最悪の不況の現局面での特徴	大場 秀雄
No.106・99年1月	
・あっと驚くできごとの根底には	伊藤 欽次

特集・労働総研設立10年の足跡

・1990年代アメリカ経済再生の虚実

No.107・2月

・現状変革願望を社会変革要求へ

・地域における雇用と中小建設業をめぐる公共事業のあり方を考える

・失業問題の深刻化と政策課題

No.108・3月

・沖縄からの新たな風を

・国際通信への進出をめざすNTTの分割「再編成」とのたたかい

・不況打開へ北海道でシンポジウム

No.109・4月

・経済と教育に貫く競争原理

・米の輸入自由化と規制緩和

No.110・5月

・世紀末と21世紀

・電機大企業における合理化攻撃と労働者のたたかい

・日本の巨大鉄道企業の分割・民営化と新会社への徹底した採用差別

No.111・6月

・子育て支援の社会政策

・なぜ401kなのか

No.112・7月

・「第3の道」に未来はあるか？

・米国チームスターズ会長追放に見る反動攻撃

No.113・8月

・世紀末の中小企業政策転換を憂う

・99春闘の特徴について

No.114・9月

・懸念と問いかけ

・韓国の労働問題研究所の活動状況

No.115・10月

・日本労働運動の新たな発展

・苦悩するベトナム経済—その成果と問題点—

No.116・11月

・地域の視点を

・トヨタの経営戦略と労働者・国民

・働くもののいのちと健康を守る全国、地方のセンターの活動の展開

No.117・12月

・地域の再生と生活の活性化

・90年代不況の現局面での特徴

No.118・2000年1月

・氷点下を越冬するホームレス

・「繁栄」の陰に隠れるアメリカの貧困問題

No.119・2月

・「ハッカー騒動」で想うこと

・教室から消える子ら、その親たちの現状

・凍てつく高校生の就職

No.120・3月

・「森嶋・小宮論争」によせて

・地域政策と労働運動

号外・3月

・日産自動車リストラの特徴と政策課題

中本 悟

上瀧 陸生

椎名 恒

大木 一訓

高畑 明尚

岩崎 俊

片岡 克己

上村 正則

河相 一成

黒田 兼一

中山 森夫

三浦 隆雄

清山 玲

庄司 博一

宮前 忠夫

小林 由知

八幡 一秀

金田 豊

吉井 清文

芹沢 寿良

佐々木昭三

小林 由知

宮崎 鎮雄

佐々木昭三

山田 信也

林 弥富

大場 秀雄

福地 保馬

小池 隆生

星村 博文

野島 通紀

浜島 勇

天野 光則

黒川 俊雄

労働総研